科目名 ：	書造形演習	単位数 ： 3 単位	必要スクーリング出席回数： 12 回
使用教科書 ：なし			
学習書 ・副読本 ：：墨心（教育出版株式会社）			

	年間総数	１範囲	２範囲	３範囲
レポート [R]	9 枚	3 枚	3 枚	3 枚
スクーリング [S]	24 回	8 回	8 回	8 回
テスト [T]	0 回	×	×	×
その他 （課題・実習等）				

1 担当者からのメッセージ（学習方法等アドバイス）

・文字を書くことが苦手でも丁寧に取り組めば大丈夫です。
・「自分で考えて制作する」ことが中心です。様々な用具用材を使用して作品制作をします。
・スクーリングには必ず書道用具を持参してください。（大筆・小筆・半紙・墨液）
　※下敷き・文鎮・硯は学校で共通のものを使用できます。
・書道Ⅰ・Ⅱを履修していなくても受講できます。

2 学習の到達目標

様々な用具・用材を使用した、書道の幅広い制作活動を通して、感性を高め、制作や構想能力の向上を図り、表現と鑑賞の能力を伸ばし、書道における様々な表現方法についての理解を深める。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：書への関心・意欲・態度	b ：書表現の構想と工夫	c ：創造的な書表現の技能	d ：鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、様々な制作活動において主体的に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために効果的な文字造形や構想を考え、個性豊かな表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	・作品および記述の点検（レポート） ・制作の様子（スクーリング）	・作品および記述の点検（レポート） ・制作の様子（スクーリング）	・作品および記述の点検（レポート）	・作品および記述の点検（レポート）

・学年末に５段階で評価する。

4 学習の活動

学期	単元名	学 習 内 容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1範囲	臨書・創作・実用書の学習	1.発泡スチロール印の制作 2.古典臨書(半紙) 3.うちわ作品制作	○	○	○		a.自らの感性や意図に基づいて、字形や作品の構成を工夫しようとしている。 a.日常生活における手書き文字のよさや美しさを感じ取ろうとしている。 b.自己の表現のねらいを達成するために、自らの表現意欲を高め、用具・用材、線質、字形、全体の構成などについて工夫している。 c.表現技法を高めるために、姿勢、執筆法などの基本的事項を身に付け表している。	・レポート ・スクーリング
2範囲	実用書・創作の学習	1.実用書 (古典から美しい文字造形を学ぶ) ・鉛筆 ・筆ペン 2.色紙作品制作 ・小色紙 ・大色紙	○	○	○		a.日常生活における手書き文字のよさや美しさを感じ取ろうとしてい a.表現活動を通して、意図的、主体的に表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びを味わおうとしている。 b.漢字の書の美に対する感性を働かせて、自らの意図に基づいて表現を構想し工夫している。 b.用具・用材によって線質や表現が変わることを理解し、表現を工夫している。 c.漢字の基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を理解し、創造的な表現を身に付け表している。 c.創造的な書表現をするために、字形や全体の構成の要素を理解してい	・レポート ・スクーリング
3範囲	創作・実用書の学習	1.カレンダー制作 2.年賀状制作 3.創作作品制作	○	○		○	a.目的や用途に即した芸術的・実用的な表現について基礎的な事項を理解し、自ら表現活動を楽しんで行おうとしている。 a.日常生活における手書き文字のよさや美しさを感じ取ろうとしてい b.漢字の書の構築的な構造や変化と統一などを理解し、字形の構成や全体の構成を工夫している。 b.用具によって線質や表現が変わることを理解し、表現を工夫してい d.鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感じ取っている。	・レポート ・スクーリング

※ 表中の観点について　a：書への関心・意欲・態度　　b：書表現の構想と工夫
　　c：創造的な書表現の技能　　d：鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。